

地域研究統合情報センター

I	研究水準	研究 34-2
II	質の向上度	研究 34-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 20 年度及び平成 21 年度で単著 6 件、編著・共編著 16 件、学術誌掲載論文 30 件、分担執筆論文 33 件等、活発に研究活動が行われている。全国共同利用施設として実施する共同研究に参加するとともに、科学研究費補助金等の共同研究の代表者、分担者、連携研究者として研究活動が実施されている。当該センター教員・研究員が研究代表者である科学研究費補助金プロジェクトは、平成 20 年度 11 件、平成 21 年度 9 件である。グローバル COE プログラム「生存基盤持続型発展をめざす地域研究拠点」や「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の協力部局として研究教育に携わり、日本における最大の地域研究ネットワークの機能強化を通じて、地域研究に関する情報流通、研究者交流に貢献しており、共同利用施設としての役割を十分に発揮しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「共同利用・共同研究の実施状況」のうち、全国共同利用については、グローバル COE プログラム「生存基盤持続型発展をめざす地域研究拠点」や「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の協力部局として研究教育に携わり、日本における最大の地域研究ネットワークの機能強化を通じて、地域研究に関する情報流通、研究者交流に貢献しており、共同利用施設としての役割を十分に発揮している。全国共同利用施設としての組織運営の基礎を作り、相関型地域研究、地域情報資源共有化、及び地域情報学の構築を可能にする研究体制が確立された。これらの設置目的に関連する共同研究には国公立大学、独立行政法人、NPO、企業等の全国の研究者が共同研究員として参加しているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、地域研究統合情報センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、地域研究統合情報センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、英領北ボルネオにおける民族形成の研究は、民族やナショナリズムを論じる際に理論面での貢献が高く評価されており、東アジア史学会賞を受賞している。地域情報の共有化システムの開発、共同研究を核とする相関型地域研究の連携促進は基より、地域研究コンソーシアムの事務局機能を最大限に果たす一方で、国内・国際シンポジウムを開催しつつ、教員各自の業績も着実に上げている。それぞれの所属学会での事典（『東南アジアを知る事典』）や講座シリーズ（『帝国の学知』『エリア・スタディーズ』『講座新アジア仏教史』）の執筆や編集協力等を通じて学界の発展に寄与している。新たな分野としての地域情報学の認知度も着実に上昇した。共同利用施設として認可されて2年ではあるが、順調な組織運営の下、実質的な研究活動の成果が上げられているなどの優れた成果がある。

以上の点について、地域研究統合情報センターの目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、地域研究統合情報センターが想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「相応に改善、向上している」と判断された事例が5件であった。